

令和4年度 東京都内湾水生生物調査 6月鳥類調査 速報

●実施状況

令和4年6月28日に鳥類調査を実施した。天候は晴れで、気温 29.8~33.0°C、南寄りの風、風速 0~4.1m/sec であった。調査当日は大潮で、干潮が 10 時 34 分(23cm)、満潮は 17 時 34 分(184cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
作業時刻	8:36~9:31	10:46~11:33	11:59~13:00
天候	晴	晴	晴
気温(°C)	29.8	32.4	33.0
風向	-	南東	南
風速(m/sec)	無風	3.5	4.1
備考	干潟は広く干出。ヨシ原ではオオヨシキリが多くさえずる。	干潟は広く干出。干潟で採貝船一隻が停泊。空港内の工事音が大きかった。	海浜公園側で観光船一隻が通過。浜辺に人は殆どいなかった。

●主な出現種等

	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
数が多かった 鳥類上位 2 種	カワウ(2302 羽) ウミネコ(755 羽)	コアジサシ(161 羽) カワウ(159 羽)	カワウ(1120 羽) アオサギ(27 羽)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として、9 種を確認。(チュウサギ、ホウロクシギ、オオセグロカモメ、ミサゴ等) ・干潟でカワウの群れが休息。サギ類は干潟や浅瀬で主に採餌、カモ類は主に休息。 ・シギ・チドリ類はコチドリとホウロクシギが各 1 羽のみ。 ・カモ類はカルガモとスズガモが干潟で休息。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として、8 種を確認。(コアジサシ、ミサゴ等) ・コアジサシの群れが干潟で休息していたほか、採餌行動や餌運びが観察された。情報によれば、6月26日に森ヶ崎水再生センターで 80 羽が飛来し営巣が確認されている。 ・干潟でカワウとウミネコが休息。カワウは浅瀬で採餌する行動も見られた。サギ類は干潟や浅瀬で採餌。 ・猛禽類はミサゴとトビを確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として、4 種を確認。(ダイサギ、コサギ等) ・第六台場と鳥の島でカワウが営巣中。巣数・個体数は先月より減少し、巣数は第六台場 17 巢、鳥の島 4 巢、合計 21 巢。個体数は合計 1120 羽。 ・サギ類はアオサギとダイサギ、コサギを確認。アオサギは頭部に幼綿羽を残す幼鳥が見られたが、第六台場で繁殖したと断定できる情報は得られなかった。 ・お台場海浜公園でイソシギ、ウミネコを確認。

● 庄現種と個体数

No.	目	科	種名	令和4年										重要種 選定基準												
				5月				6月				お台場海滨公園				お台場海滨公園				文化財保護法				環境省 ^{*2} RL2020		
				萬西人工渚(東なぎさ)		範囲内		森ヶ崎の鼻		第六台場		鳥の島		公園側		合計		森ヶ崎の鼻		第六台場		鳥の島		公園側		合計
1	カモ	カモ	カモガモ	スズガモ	カツツブリ	カツツブリ	カツツブリ	カツツブリ	カツツブリ	カツツブリ	カツツブリ	カツツブリ	カツツブリ	カツツブリ	カツツブリ	カツツブリ	カツツブリ	カツツブリ	カツツブリ							
2																										
3																										
4																										
5																										
6																										
7																										
8																										
9																										
10																										
11																										
12																										
13																										
14																										
15																										
16																										
17																										
18																										
19																										
20																										
21																										
22																										
23																										
24																										
25																										
26																										
27																										
28																										
29																										
30																										
31																										
32																										
計8目13科32種				23種	2種	23種	14種	7種	8種	6種	12種	13種	6種	12種	13種	6種	12種	13種	6種	12種	13種	0種	3種	8種	24種	

*種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会、2012)に従った。

*1 種の保存法：国際国際希少野生動植物種 国内=国内希少野生動植物種 国外=絶滅危惧I類、EN=絶滅危惧II類、VU=絶滅危惧III類、NT=準絶滅危惧 II類、CR=絶滅危惧 I B類、VU=絶滅危惧 I A類、EN=絶滅危惧 II A類、DD=情報不足、留=留意種

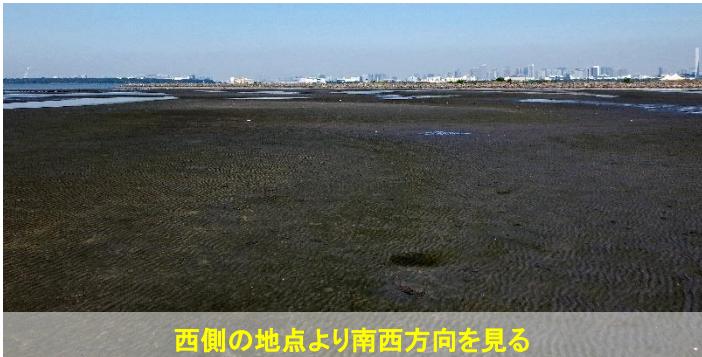
*2 環境省レッドリスト2020：CR=絶滅危惧I類、VU=絶滅危惧II類、NT=絶滅危惧III類、EN=絶滅危惧IV類、DD=準絶滅危惧 II類、VU=絶滅危惧 I B類、CR=絶滅危惧 I A類、EN=絶滅危惧 II A類、DD=情報不足、留=留意種

*3 東京都レッドリスト(区部)2020年版：CR=絶滅危惧I類、VU=絶滅危惧II類、NT=絶滅危惧III類、EN=絶滅危惧 IV類、DD=情報不足、留=留意種

<葛西人工渚(東なぎさ)>

○調査地点の状況

引き潮で、干潟は広く干出していた。



西側の地点より南西方向を見る



○出現種(シギ・チドリ類)

干潟で採餌するホウロクシギと、上空を飛ぶコチドリの鳴き声が確認された。ホウロクシギは種の保存法で国際希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドリストで絶滅危惧 IA 類(CR)に指定されている。コチドリは東京都レッドリストで絶滅危惧 IA 類(CR)に指定されている。



○出現種(カモ類)

干潟で休息するカルガモ 19 羽とスズガモ 6 羽が確認された。スズガモは主に冬鳥として渡来するが、怪我など何らかの理由により越冬地に留まっていると思われる。本種は東京都レッドリストで留意種に指定されている。



○干潟利用状況

干潟でカワウの群れが休息、サギ類は主に採餌、カモメ類は主に休息していた。これらの個体の一部は、その後、引き潮に伴い、干出した沖合の三枚洲に移動した。サギ類はアオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギの 4 種で、ダイサギは東京都レッドリストで準絶滅危惧(NT)に、チュウサギは環境省レッドリストと東京都レッドリストで準絶滅危惧(NT)に、コサギは東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。カモメ類はウミネコとセグロカモメ、オオセグロカモメの 3 種で、ウミネコは東京都レッドリストで留意種に、オオセグロカモメは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)に指定されている。



手前にサギ類、中程にカワウ、
奥側と手前にカモメ類の群れ

<森ヶ崎の鼻>

○調査地点の状況

最大干潮時刻の 12 分後から調査を開始した。干潟は広く干出していた。



○出現種(コアジサシ)

干潟に群れが降りていたほか、水中に飛び込んで採餌する個体、魚をくわえて運ぶ個体が確認された。森ヶ崎水再生センター屋上の人工営巣地では 6 月 26 日の時点で成鳥約 80 羽、推定営巣数 22 巢が NPO 法人リトルターンプロジェクトによって確認されている。

<https://littletern.hatenablog.com/entry/2022/06/26/225503>



○出現種(カワウ)

53 羽の群れが浅瀬で潜水を繰り返し、採餌する様子が観察された。その後干潟に上陸して休息した。



○出現種(ミサゴ、トビ)

杭にとまって休息するミサゴと、上空を旋回するトビが確認された。ミサゴは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドリストで絶滅危惧 I B 類(EN)に、トビは東京都レッドリストで準絶滅危惧(NT)指定されている。



○干潟利用状況

カワウとウミネコの群れが休息していた。サギ類はアオサギ、ダイサギ、コサギの 3 種で、アオサギの一部を除き干潟や浅瀬で採餌していた。護岸沿いに干出した狭い干潟ではコチドリが採餌していた。



<お台場海浜公園>

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島ではカワウの営巣がほぼ終了し、わずかな巣が使われていた。



○出現種(カワウ)

使用中の巣は第六台場 17 巢(目視できた雛 15 羽)、鳥の島 4 巢(同、2 羽)、合計 21 巢で、ほとんどの巣が巣立った後であった。繁殖期は終盤と考えられる。第六台場の護岸や樹林、鳥の島では巣立ち後の幼鳥が多く見られた。個体数は 1120 羽で、5 月調査の 1425 羽より減少した。



巣内の雛



鳥の島の護岸に群れるカワウ

○出現種(サギ類)

アオサギとダイサギ、コサギが第六台場と鳥の島、お台場海浜公園で観察されたが、営巣は確認できなかった。アオサギは頭部に幼綿羽を残す幼鳥が確認されたが、飛翔可能な状態まで育っているため他から移動してきた可能性が残る。古巣等、お台場で繁殖した事を示す痕跡は見つからなかった。



頭に幼綿羽が残るアオサギ幼鳥



ダイサギ



コサギ

○出現種(ウミネコ)

お台場海浜公園付近では出現が少なかったが、海上の標識にとまって休息するウミネコが合計 4 羽観察された。このほか、護岸付近でイソシギやアオサギ、コサギが確認された。



○ウミネコの繁殖

砂町運河では、構造物やその周辺でウミネコの成鳥 122 羽、幼鳥 17 羽、雛 3 羽が確認された。これまで、営巣は海上に設置された構造物で行われてきたが、今回の調査で京葉線高架での営巣が確認された。1 個所目はテラス状に突き出た部分で(写真中段左)、雛 2 羽は風切羽が伸びておらず飛べないため、この場所で孵化したと推測された。2 個所目は京葉線の橋脚部分で(写真中段右)、雛は 1 羽であった。この他、カワウ 52 羽が高架で休息していた。



構造物とウミネコ



ウミネコ幼鳥(矢印)



京葉線高架のテラス状の部分にいる雛と成鳥



京葉線の橋脚にいる雛



京葉線の高架にとまる成鳥



京葉線の高架にとまるカワウ(奥側)とウミネコ

<トピックス>

-6月は種数が少ない?-

東京湾沿岸の鳥類相を調べた事例を見ると、例えば千葉県(2008)¹では 6 月の種数が 1 年間で最も少ない。1966~1968 年に浦安~市川市で調べた事例も同様である(新浜俱楽部 1988²)。冬期はカモ類やカモメ類などの冬鳥が多く渡来し、春秋は旅鳥のシギ・チドリ類によって種数が増える。6 月はこれらの冬鳥、旅鳥がない事、夏鳥として渡来する水鳥がコアジサシやコチドリなどに限られる事から、生息種数が減少する。

¹ <https://www.pref.chiba.lg.jp/shizen/sanbanze/chousahoukoku/documents/19gaiyou19.pdf>

² 新浜俱楽部, 1988. 新浜の鳥 (1966 年~1968 年の記録). 新浜俱楽部, 武藏野.